

令和 7 年度 県立結城特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆安全・安心な教育環境と豊かな心を育む教育を推進する学校 ◆一人一人の障害の状態等に応じた指導の一層の充実を図る学校 ◆学校教育活動全体をととしたキャリア教育を推進する学校 ◆地域における特別支援教育のセンターとしての役割を深める学校		
昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標	達成状況
○地域と連携した防災教育、栄養教諭、養護教諭等と連携した健康教育、家庭と連携した健康プロジェクト等を行い、健康の保持や体力の向上に努めることができた。自らの身体に関心をもち、進んで体を動かす習慣が身につくようにしていく。 ○教科の見方、考え方を働かせるような発問の工夫をすることで、児童生徒の多様な考えを引き出し、身につけたい力を意識した指導の工夫をすることができた。次年度の指導に引継ぎ、系統的な指導ができるようにしていく。 ○地域と連携した教育活動を通して、自己肯定感、自己有用感を育むことや、憧れる自己イメージを獲得することができるようにした。将来の進路選択につながる学びを充実させていく必要がある。 ○特別支援教育の理解促進のため、地域の特別支援教育の現状と課題について、関係機関と年間 3 回協議を行った。課題の解決のための施策を検討し、地域の特別支援教育の専門性の向上に取り組んでいく。 ○学校行事の目的の整理や協議内容の事前調整により業務の効率化を図ることができた。ICT 機器等を活用し、教材教具や情報の共有化に取り組んでいく必要がある。定期的なコンプライアンス意識を高める研修を継続していく。	1 安心して学べる教育環境	①健康の保持増進のための実践力の育成 ②地域や関係機関と連携した安全能力の育成 ③児童生徒が互いに認め合い励まし合う集団づくりの推進	
	2 学習活動	①一人一人の状況に応じた系統的な指導の充実 ②学習のねらいに応じた ICT（タブレット端末）の活用の推進 ③主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の実施	
	3 キャリア教育	①小学部段階からの系統的なキャリア教育の推進 ②自己理解を深め、主体的な進路選択を促す指導の工夫 ③地域や企業と連携した教育活動の充実	
	4 センターの機能	①幼保、小・中学校、高校への相談支援体制の充実 ②専門家や地域の関係機関との連携強化 ③地域への特別支援教育の関する積極的な情報発信	
	5 働き方改革コンプライアンス確保	①教員のパフォーマンス向上を図る効率化の促進 ②目的を共有し、支え合う組織力の向上	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	・安全・安心な教育活動を行うための学校体制の充実	・危機管理意識の向上のための安全・安心に係る計画的・実践的な訓練・研修を実施する。	1－①②		
	・地域や関係機関と連携した学習活動の充実	・地域と子どもたちの学びを深められるよう協議し、実践する。	3－①②③		
教職員の 育成及び 指導・監督	・児童生徒の学びを深める授業改善と学習評価の充実	・評価に関する実践事例を蓄積し、共有する。	2－①③		
対外活動	・本校の教育活動に係る理解促進	・学校公開やホームページをとおして、本校の教育活動の情報発信を行う。	4－③		
	・相談支援体制の充実	・地域の実態を適切に把握し、適切な支援について、関係機関と協議する。	4－①②		
コンプライ アンス確保	・人権尊重の視点に立って、個に応じた適切な支援の充実	・人権尊重の視点に立った支援のための、児童生徒への言葉かけについての研修を実施する。	1－③ 5－②		
	・目的を共有し、支え合う組織力の向上	・職員間の連携が図るための、目的や目標を共有する研修を設定する。	5－②		
働き方 改革	・業務の効率化の推進	・教材等を集約し、相互に活用したり、校務分掌業務のマニュアル化を推進する。	5－①		
I C T活用	・学習のねらいに応じた I C T機器の活用方法の工夫	・授業での効果的な I C T機器の活用事例を共有する。	2－①②		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない